

平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

伊勢志摩サミット三重県民会議 事業計画（案）

1 「開催支援」に関すること

1/29 HPで受付開始

◆ 伊勢志摩サミット宿泊予約センターの設置（事業番号1）

サミット開催時に集中的に来県する関係者に対し、宿泊先となるホテル等を安定的かつ効率的に確保し、宿泊に関するサービスを一元的に提供するとともに、宿泊施設に対するサミット関係者受け入れにあたってのサポートや三重県の観光振興に係る取組などを行う伊勢志摩サミット宿泊予約センターを設置する。

◆ 配偶者プログラムの提案（事業番号2）

首脳会議が1泊2日で予定されていることから、その期間内で実施することを想定し、テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討し、三重県の魅力がプログラムに盛り込まれるよう、国への提案を行う。

◆ 県産食材等の利用促進に向けた取組（事業番号6）

全県をあげて、質の高い県産食材等をリストアップし、サミットにおける国の公式プログラムやレセプション等のほか、プレスツアー等の行事の食事メニューにおいて採用されるよう、県産食材等の活用を国や関係ホテル等に対して積極的に提案する。

◆ 弁当供給体制の整備（事業番号7）

伊勢志摩サミットの開催に際して、警備、消防、医療、現地スタッフ等に対し、安全・安心かつ美味しい食事を大量に継続して提供するための体制を整備し、関係者用の受注窓口を設置する。三重県産食材の使用も含めて検討を行う。

◆ インフォメーション機能の整備（事業番号16）

300名 語学研修中

世界各国からの来訪者をおもてなしの心でお迎えするため、外国語案内ボランティアを幅広く募集し、地元市町・団体等との協力により、空港や駅等における移動支援・観光案内等のインフォメーション機能を提供する。

◆ 輸送サービスの円滑な提供（別紙参照）

報道関係者のセントレアと宿泊ホテル間の移動等を円滑にするため、公共交通機関（鉄道・路線バス・高速船など）による移動を補完するシャトルバスを運行するなど、外務省と連携・協力して関係者の移動支援を行う。

◆ 警備関係への協力や住民への情報提供

地元市町等と調整のうえ、住民懇話会を開催し、サミットに関する情報を、地元関係団体・住民に提供し、伊勢志摩サミット開催に対する理解促進と機運醸成、警備体制の理解を求め、住民が有する疑問や課題の解決を行う。

◆ 公式行事に伴う歓迎交流（別紙参照）

歓迎行事を国等と連携して実施し、来県する各国首脳等に、歓迎の意を表明する。

県民（特に子どもたち）が各国首脳と触れ合う機会をつくるため、交流行事を検討する。

◆ 伊勢志摩サミットの開催機運を盛り上げるためのレセプション開催

サミット関係大使館等を招き、サミットの開催機運を盛り上げるとともに三重の魅力伝えるため、レセプションを開催する。

2 「おもてなし」に関すること

◆ 機運醸成に向けたサミットフォーラムの開催（事業番号5）

伊勢志摩サミットへの理解を深め、開催機運を醸成するため、「おもてなし」「明日へつなぐ」「三重の発信」などを県民とともに考えるサミットフォーラムを開催する。

第2回と鈴鹿で。

◆ クリーンアップ活動・花いっぱいおもてなし運動の実施（事業番号8）

世界各国からの来訪者に対し、県民の歓迎の意を表現するとともに、一人でも多くの県民が来訪者歓迎に関わるため、全県的に環境美化・清掃活動、飾花運動を行う。キックオフイベントを行うことで県民参加による伊勢志摩サミット開催の機運醸成や参加意識の向上を目指す。

◆ カウントダウンボード、ノベルティを活用したPRの実施（事業番号11）

伊勢志摩サミットに向けて、協賛事業も活用しながら県内外の各地にカウントダウンボードを設置することで、伊勢志摩サミット開催の機運醸成を目指す。

関係関係会合や三重テラス等PR効果の高い県外でのイベントや三重県で開催される全国大会等において、ポストカード等の各種PRツールを用いて幅広く周知を行う。

◆ おもてなし向上研修などの実施（事業番号16）

世界各国からの訪問者に満足いただけるおもてなしを行うとともに、国際観光地としてレベルアップのため、各市町の観光協会・観光案内所等の職員向け、及び、飲食店や宿泊施設など生活衛生関係営業向けに、外国人旅行者に対応するための接遇等研修を実施する。

3 「明日へつなぐ」に関すること

◆ ジュニア・サミットの開催（事業番号3）

三重の魅力の発信や明日へつながる交流を残すため、三重県開催が決定したジュニア・サミットについて、三重県の独自性を生かすとともに、県内高校生が参加者と交流できる機会を可能な限り設定したプランを国に提案する。

◆ 多様な主体における国際理解・国際交流事業の開催（事業番号15）

サミットの開催を契機として、サミット参加国について学ぶ機会を設け、学校や市町、民間企業・団体等、多様な主体が、国際理解・国際交流を深める機会を提供する。特に次代を担う子どもたちが多文化を理解し、国際的な視野や感覚を身に付けるきっかけとすることで、明日を担う世代の育成を目指す。

◆ 大学生・留学生との交流事業

サミット開催を機に、サミット開催地・三重県に、県外大学生や留学生等を招へいし、県内大学生、留学生との交流機会を設ける。

◆ サミット記録誌の発行（別紙参照）

伊勢志摩サミットの準備から開催経過、県民会議や市町等の取組をまとめて記録誌として刊行し、サミット後の県や市町の施策展開や民間企業等の取組に役立つ。

◆ サミット記念館の設置（別紙参照）

県民の方々や伊勢志摩地域を訪れる方々にサミットの様子やサミットの際に使用された調度品・県産材の紹介を行い、サミットを契機とした三重のPRを継続して行うための、サミット記念館を設置する。

4 「三重の発信」に関すること

◆ シンボルマークの制定（事業番号4）

県民会議や県民会議の活動に賛同する多くの県民が自由に使用できる県民会議としてのシンボルマークを独自に作成し、広報活動に活用することで伊勢志摩サミット開催の機運醸成を行う。シンボルマーク作成にあたっては、北勢きさら学園在学時の作品が2008年の北海道洞爺湖サミットのロゴマーク公募で最優秀作として採用された近藤氏に依頼し、北海道洞爺湖サミットの経験を伊勢志摩サミットの成功と三重県の明日へつないでいく、また、多様な主体に参画いただくことを、県民会議からの強いメッセージとして発信する。

◆ ロゴマーク募集事業への協力依頼（事業番号4）

伊勢志摩サミット開催の機運醸成のため、県内学校等に向けて国のロゴマーク募集事業への積極的な協力を依頼する。

◆ ホームページ、SNSでの発信（事業番号9）

ホームページ、Facebook、Twitterを活用し、県民会議の取組、三重の魅力やサミットに向けた情報を効果的に幅広く発信する。

◆ ポスター、リーフレット、チラシ等によるPRの実施（事業番号10）

伊勢志摩サミット開催の機運醸成と県民意識の醸成を表現するため、「起・承・転・結」の構成とする「伊勢志摩サミット2016」ポスターを第5弾まで作成し、多くの人々に伊勢志摩サミットの三重県開催のPRを実施する。 21件（第4弾）

◆ プレス等を活用した情報発信（事業番号12）

国内外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や三重県の多彩なコンテンツを体感いただき、三重県魅力を国内外へ発信することで、三重県の認知度を高め、ブランドイメージの確立・浸透を図るため、プレスツアー等を実施するだけでなく、プレスツアーへの参加を呼び掛けるイベントを開催する。

◆ 海外メディア等でのPR（別紙参照）

伊勢志摩サミット開催を千載一遇の機会ととらえ、サミット開催地である三重県
の様々な魅力を、海外メディアを通して発信することで、三重県の認知度を高
め、サミット後のインバウンドの増やMICEの誘致、県産品の販売増などにつ
なげる。

◆ 三重県情報館（仮称）の設置（事業番号13）

国際メディアセンター内に、国内外から来県する多数の報道関係者等を通じて、三重県の魅力を国内外に発信するための拠点として「三重県情報館（仮称）」の設置を要望し、日本の中の「地方」の代表として三重県の伝統・文化、食、技術などの魅力を発信する。

◆ 三重テラス、関西事務所など県外でのイベント等の展開

伊勢志摩サミット開催及び開催地である三重県の全国的な発信のため、三重テラス等にて、2016年伊勢志摩サミット開催に向けたイベント等を展開するとともに、関係閣僚会合開催県と連携を図り、双方のPRを行う。

◆ 海外ミッションの機会等を利用したPRの実施

三重県での伊勢志摩サミット開催をアピールするとともに、三重県の知名度向上を図るため、海外ミッションにて伊勢志摩サミットに関するPRを実施する。

平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

プレス用シャトルバス運行について(案)

1 目的

伊勢志摩サミットの取材のため海外から来県する報道関係者が、セントレア・宿泊ホテル間の公共交通機関による移動にあたって感じる負担や不便を軽減する。

2 取組内容

(1) 移動支援

- ① 津なぎさまちと海外プレスの宿泊先ホテルを結ぶ無料シャトルバスを運行する。
- ② 航空機の発着が集中する時間帯について、津エアポートライン（高速船）を増便運航を依頼する。

(2) 運行計画

① シャトルバス

- ・往路〔5月24日・25日〕

津なぎさまち発で、津地区・松阪地区・伊勢地区・鳥羽地区・亀山地区の5地区へ高速船の到着時間に合わせて運行（津なぎさまち発 11:00～23:00 の間に 11 便）。

- ・復路〔5月28日〕

上記5地区発、最寄の鉄道駅を経由し津なぎさまちに到着バスを高速船出発時間に合わせて運行（津なぎさまち着 5:30～18:30 の間に 12 便）

② 津エアポートライン（高速船）

5月24日・25日・28日の期間で、航空機の発着が集中する時間帯に接続する高速船について、通常1便運航のところを2便運航（各日5便増）及び通常運航しない時間帯に1便運航。

(3) 取組方針

- ① 海外プレスに対し、セントレア・宿泊ホテル間の移動について、高速船利用ルートを推奨する。
- ② 津エアポートライン及びシャトルバスでの移動中に効果的な三重の情報発信を行う。

3 今後のスケジュール

平成 28 年 2 月 シャトルバス運行計画案作成、高速船運航依頼・調整

3 月 バス運行事業者への業務委託

4 月 シャトルバス運行計画決定

5 月 シャトルバス運行実施

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

各国首脳等と県民との交流について
～「世界との絆づくり」～

1 事業の概要

地域の国際化や情報発信の促進、学生や子ども達のサミットへの参加意識の高揚、各国と地域の一層の関係強化につなげるため、伊勢志摩サミット開催前後に、来県される各国首脳等や配偶者に県内市町等を訪問していただき、姉妹都市関係、大学間協定をはじめとする歴史、文化、教育、産業などのつながりを踏まえた、記念事業、伝統文化の紹介など、地域住民との交流プログラムを実施する。

2 取組方針

(1) サミット参加各国等と県内市町及び県内高等教育機関とのつながり

県内市町及び県内高等教育機関（以下、「県内市町等」。）とサミット参加各国等とのこれまでのつながりや、未来に向けた関係強化の動きを生かした交流を実施する。

(2) 一層の関係強化、地域の伝統文化、特産品の発信

交流にあたっては、サミット参加各国等の歓迎等に加え、県内市町等とサミット参加各国等の一層の関係強化につながる内容とし、かつ、機会を捉えた地域の伝統文化、特産品の発信を実施する。

(3) 県と県内市町等との連携

交流プログラムの立案、調整、実施に際しては、県及び県民会議と県内市町等で連携して実施する。

3 進め方

各国首脳等や配偶者と県民との交流実現に向け、県内市町等から提案いただいた交流プログラム案を基に各国に対し働きかけを行う。

※交流プログラム案について、セキュリティ等の観点から内容等は非公表。

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

各国先遣隊歓迎夕食会について

1 事業の概要

来県される各国先遣隊に対し、三重の食材を生かした料理やお酒、伝統芸能等の披露等によるおもてなしで慰労するとともに、三重の魅力を発信し本国に伝えていただくため、夕食会を開催する。

※先遣隊：本国政府の関係者がサミットの準備状況確認のため来県するもの。

北海道洞爺湖サミット時には、G8すべての国等（米、英、仏、独、伊、加、露、EU）に対し、北海道洞爺湖サミット道民会議主催の夕食会が開催されている。

2 実施内容

- (1) 場 所 伊勢志摩地域のホテル
- (2) 時 期 平成28年2月から4月頃を想定
- (3) 対応者 伊勢志摩サミット三重県民会議（三重県、関係市町等）

3 その他

- ・先遣隊の三重県訪問については非公表とのことであるため、夕食会についても非公表とする。

平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
総務課

伊勢志摩サミット記録誌の発行について

1 方針

伊勢志摩サミットの準備から開催経過、県民会議や市町等の取組をまとめて記録誌として刊行し、サミット後の県や市町の施策展開や民間企業等の取組に役立てる。

2 発行時期及び配布先(案)

平成 28 年内をめどに発行し、県民会議会員、関係議員、国、都道府県、報道機関、寄附者、協賛事業者、応援事業者、各事業関係者などを対象に配付する。

3 記録誌の掲載内容

北海道洞爺湖サミット記録誌を参考に、今後検討していく。

[北海道洞爺湖サミット記録誌 概要]

第 1 篇 サミット会合開催概要

第 1 章 G8 サミットの概要

第 2 章 北海道洞爺湖サミットの概要

第 3 章 関連行事

第 4 章 NGO との対話

第 2 編 サミット開催に向けて

第 1 章 誘致

第 2 章 体制

第 3 篇 道民会議等の取組

第 1 章 概要

第 2 章 開催支援

第 3 章 北海道発信 ◆北海道情報の総合的な発信◆環境◆食◆観光◆芸術文化

第 4 章 おもてなし ◆歓迎気運の醸成◆おもてなしの充実

第 5 章 未来

第 6 章 連携プロジェクト事業

第 7 章 地域の取組

第 8 章 消防・保健医療

第 4 編 予算・決算

第 1 章 道民会議事業

第 2 章 行政事業

資料

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
総務課

伊勢志摩サミット記念館の設置について

1 方針

県民の方々や伊勢志摩地域を訪れる方々にサミットの様子やサミットの際に使用された調度品・県産材の紹介を行い、サミットを契機とした三重のPRを継続して行うための、サミット記念館を設置する。

「明日へつなぐ」事業として、子どもたちの学習機会の場となるような展示も勘案した、体験型の要素を含めた記念館とする。

2 設置時期

平成28年内～サミット開催1年後の間において検討していく。

3 設置場所

○サミット開催の記念となるにふさわしい場所

○既存の建物を生かせる場所

○アクセス的にも多くの人に触れることのできる場所 を検討していく。

4 展示内容

○首脳会議場等での調度品、三重県情報館(仮称)での展示品を中心に選定する。

○物品の展示に加え、動画の利用等、同的な要素も盛り込む。

資料1 (別紙6)

平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

動画制作及び放映について

1 目的

伊勢志摩サミット開催100日前を契機に、より都市圏の人々及び訪日外国人に対して三重県を印象づけ興味を喚起させるため、動画を制作し、放映するものです。

2 事業の概要

(1) 動画コンテンツ

サミット開催県知事からのメッセージをベースとし、「伝統と革新が共存する場所、三重」をキーワードに三重県全体のPRを行う、30秒のCMを制作する。

(2) 動画放映

・放映期間

平成28年3月上旬～5月下旬

・放映箇所

東名阪の主要駅、及び、空港など

※交渉、調整中

・その他

Youtube、伊勢志摩サミット三重県民会議ホームページ、Facebook、協賛企業での放映等、あらゆる場所・時期で活用する。

平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

ANA・JAL機内誌等でのPR

1 目的

伊勢志摩サミットの開催を前に、ANA及びJALの利用者に三重県伊勢志摩でサミットが開催されること及び三重県を広く知っていただくため、機内でのPRを展開する。

2 取組内容

(1) ANAの協賛等による機内でのPR

ANAと三重県とが地方創生に向けた様々な分野で連携するための覚書を締結していることから、機内誌面及び機内映像の放送枠を無償で提供いただき、伊勢志摩サミットのPRに取り組む。

①ANA機内誌へのPR広告掲載

国内線「翼の王国」4月号、国際線「WIN GSPAN」5月号

②機内でのPR動画の放映

国内線の機内VTR(30秒)5月

③CNNでのPR動画の放映

2月に国内線で放映予定の映像を編集し、CNNでのPR動画の放映等

(2) 官邸によるPR

ANA及びJAL機内誌への伊勢志摩及び関係閣僚会合開催地のPR
広告掲載

ANA、JAL国際線機内誌3月号

3 今後の展開

ANA及びJALの利用者の中心である企業や団体の役員・管理職クラス等や海外の方々に対して、2016年5月に三重県で伊勢志摩サミットが開催されること及び三重県を広く知っていただける誌面構成、放送内容を制作する。

平成 28 年 2 月 17 日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

海外への情報発信について

1 目的

海外のメディアに三重県を取材する機会を提供し、三重県ならではの体験や多彩なコンテンツを人への取材を通じて体感いただき、三重県の魅力を海外へ発信することで、三重県の認知度を高め、開催後のインバウンドをはじめとする観光客の増加や県産品の販売増につなげる。

2 内容

(1) 第 2 回県民会議プレスツアーの実施

- ①日程 平成 28 年 2 月 17 日(水)、18 日(木)
- ②テーマ 「豊かな森に包まれた熊野古道伊勢路と持続可能な林業、ニーズをつかんだアイデア豊かな水産業」
- ③取材先 速水林業(紀北町)、三重県立熊野古道センター(尾鷲市)、松本峠(熊野市)、花の窟神社(熊野市)、ビジョン早田実行委員会(尾鷲市)、尾鷲物産株式会社(尾鷲市)、株式会社ディーグリーン(紀北町)、知事インタビュー
- ④参加者 在京の海外メディア 4 名を予定(2 月 12 日時点)

(2) 欧米トップクラスの著名人を招へいたプレスツアーの実施

- ①日程 平成 28 年 2 月 15 日(月)から 19 日(金)まで
 - ②概要 フランスの一流シェフ(シシル・リニャック氏〔※〕)が、三重の様々な食材に触れ、その様子を同行する海外メディア(フランスのル・モンド紙など)が取材し、海外へ発信する。
 - ③主な取材先 答志島(鳥羽市)、志摩観光ホテル(志摩市)、伊勢神宮・おかげ横丁(伊勢市)、相可高校(多気町)、桔梗屋(伊賀市)
 - ④取材する主な食材 的矢かき、伊勢えび、伊勢茶、伊賀牛、三重ジビエ
- 〔※〕…フランスの一流スターシェフ。ミシュラン一つ星レストランやパティスリーを経営。TV番組の司会も務め、TV・雑誌にも頻繁に登場。料理に関する著作多数。

(3) 海外富裕層への戦略的プロモーションの実施

欧州のメディアを中心に三重県を取材いただき、番組での放送や雑誌への記事掲載により、三重県の様々な魅力を発信する(3月上旬取材予定)。

(4) 海外有カメディアを活用した情報発信

海外有カメディアに取材の提案を行うと同時に、記事広告等による三重県のPRを行い、サミット開催後の三重県全体の活性化につなげる。

(主な取材メディア) ニューズウィーク (2月12日発行)

3 今後の予定

伊勢志摩サミット三重県民会議主催の第3回プレスツアーは、サミット開催前の4月から5月にかけて中南勢地域を中心に実施する予定であり、今後、関係機関と調整を進めていく。

また、外務省など他団体主催のプレスツアーも含め、事業全体で県内全域の情報発信となるよう努める。

海外有カメディアの活用についても、引き続き、サミット開催を契機に、三重県の魅力が世界に発信されるよう、さまざまな手法によるアプローチを行う。

第2回住民懇話会の開催状況について

1 実施日時・場所・参加者数

- (1) 南伊勢町
平成28年2月7日 午後2時から午後3時までの間
南伊勢町民文化会館 参加者60人
- (2) 志摩市
ア 平成28年2月7日 午後7時から午後8時までの間
浜島B&G海洋センター 浜島地区住民等52人
イ 平成28年2月10日 午後7時から午後8時20分までの間
志摩市磯部生涯学習センター 磯部地区住民等62人
ウ 平成28年2月11日 午後2時から午後3時20分までの間
志摩市役所 阿児地区住民等92人
エ 平成28年2月11日 午後7時から午後8時までの間
志摩市役所 阿児地区住民等34人
オ 平成28年2月13日 午後7時から午後8時までの間
神明地区公民館 阿児地区住民等99人
カ 平成28年2月15日 午後7時から午後8時までの間
賢島パークホテル「みち潮」 阿児地区住民等53人
- (3) 伊勢市
平成28年2月13日 午後2時から午後3時までの間
伊勢市生涯学習センターいせトピア 参加者40人 参加者合計 492人

2 実施者

- (1) 主催
三重県雇用経済部伊勢志摩サミット推進局
- (2) 共催
三重県警察、第四管区海上保安本部及び地元4市町

3 説明内容

- (1) 三重県
ア 三重県による取組状況の説明
イ 三重県民会議による取組状況の説明
ウ 消防による取組状況の説明
- (2) 三重県警察・第四管区海上保安本部
ア 警備計画の進捗状況
イ 警備による住民生活への影響状況
ウ 今後の警備方針
- (3) 地元自治体
ア イベントの実施計画
イ 警備への協力要請



4 質問内容

懇話会への出席者からは、IDカードや車両通行証の発行手続き、警備の開始時期や検問場所、海上航行や漁業への影響度合い等、具体的な警備の手法等についての質問がありました。

各機関からは、
現在関係機関と調整中であり、決定次第情報発信する。
具体的な警備手法等については、公表は難しいが交通規制や迂回路等の情報は、
決定次第、積極的に発信していきたい。
等の回答がされました。

5 今後の開催予定

- ・ 平成28年2月21日午後1時30分から 志摩市間崎島開発総合センター
- ・ 平成28年2月27日午後2時00分から 志摩市志摩文化会館
- ・ 平成28年2月27日午後7時00分から 大王公民館
- ・ 平成28年2月28日午後2時00分から 鳥羽市民文化会館

※ 第3回住民懇話会は4月下旬から5月上旬に開催する予定です。

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

宿泊施設の状況について

1 宿泊予約センターによる宿泊施設確保状況

本年3月24日から5月29日までを5つの期間に分けて、それぞれの期間に必要なと想定される客室を確保できるよう、伊勢志摩地域の全宿泊施設、及び津・亀山・鈴鹿以南のビジネスホテル（洋室）を主な対象に取り組んできました。

現時点で、おおよそ必要な客室数を確保できていますが、宿泊者は、サミット開催前後のピーク時には警備関係者を中心に2万5千人程度を想定しており、この期間については、対象地域を広げたうえで、引き続き宿泊施設に対し協力を依頼しています。

昨年7月には、宿泊対象と想定されうる施設に対し、GW明けからサミット開催までの期間の宿泊予約を受け付けないよう依頼しましたが、この協力依頼は10月16日に解除しました。また、宿泊予約センターによる配宿への協力申し出があった客室についても、出来る限り機会損失のないよう使用見込みのない期間・地域の客室については、昨年11月10日以降、順次、各施設への返還を行っています。

今後は、実際に宿泊する期間・人数・部屋タイプ等に応じた必要な客室を確保するため、随時、宿泊施設と個別調整を行い、増室及び減室を重ねていきます。

2 風評対策

4月・5月の伊勢志摩方面への旅行について、「宿が取れないのではないか」などの風評が一部で有るようですが、GW期間中までは、宿泊予約センターがサミット関係者用に確保している客室もそれほど多くなく、センターの確保分以外は各宿泊施設が通常通りの営業を行っており、GW明けも開催が近づくまでは一般観光客の利用について特別な制限は有りません。観光局と連携し、旅行代理店や観光客への適時的確な情報提供に取り組むことにより、正確な理解の促進と誘客に努めています。

【県民会議の取組状況】

・1月14日（木）

JTBグループが取引している全世界の旅行代理店向けに配信されるメールマガジン（Japan Infocus）において、伊勢志摩の魅力についての記事を掲載するとともに、ゴールデンウィークからサミットまでの期間についても来訪を歓迎することを発信。

※その他、宿泊予約センターを運営する共同事業体を構成する㈱JTB中部、近畿日本ツーリスト㈱、㈱日本旅行において、積極的な旅行プランの造成や風評被害防止のための正確な情報発信に努めていただくよう要請。

【観光局の取組状況】

・1月8日（金）

伊勢志摩地域の観光協会等観光関係者を訪問し、現状把握及び情報提供。

- ・ 1月13日 (水)
 - (一社) 日本旅行業協会 (大手旅行会社、宿泊施設等約450会員) の賀詞交歓会で三重県への送客を告知。
- ・ 1月19日 (火)
 - JTB中部圏誘致協議会(中部8県(富山、石川、福井、長野、岐阜、静岡、愛知、三重)のJTB関係者、宿泊施設、観光施設等約600会員)の賀詞交歓会で三重県への送客をお願いすることに加え、JTB店舗でのキャンペーン開催の依頼。
- ・ 1月21日 (木)
 - JTB本社主催賀詞交歓会で、木村三重県旅館ホテル生活衛生同業組合理事長が(一社)日本旅行業協会田川会長(JTBグループ会長)に文書(12月24日付け)を手渡し、三重県への送客を依頼。
- ・ 1月22日 (金)
 - ① (一社) 全国旅行業協会の支部(愛知、岐阜、静岡、大阪、兵庫)に対して、伊勢志摩地域の宿泊施設の状況について情報を提供し三重県への送客を依頼。今後、各支部から会員旅行会社に情報共有される予定。
 - ② 観光経済新聞主催「人気温泉旅館250選5ツ星の宿表彰式」で、東京事務所長が三重県への誘客を依頼。
- ・ 2月1日 (月)
 - 近畿日本ツーリスト直営店及び特約店約730店舗に対して伊勢志摩の宿泊施設への送客依頼文書の配信を依頼。
- ・ 2月9日 (火)
 - (一社) 全国旅行業協会本部に対して、会員会社への伊勢志摩の宿泊施設への送客依頼文書の配信を依頼したところ、約3,000社にメールマガジンで配信いただく予定。
- ・ 2月9日 (火)
 - 3月にJTB中部管内の165店舗にて伊勢志摩送客キャンペーンを実施することが決定。
- ・ 2月10日 (水)
 - 伊勢鳥羽地域の観光協会関係者を訪問し、現状把握。
- ・ 2月17日 (水)
 - 三重県観光連盟事務局から会員(266)宛に誘客営業用書面を配信。
- ・ 2月18日 (木)
 - 大手旅行会社4社の仕入れセンター(宿の宿泊状況を把握している部署)を訪問し現状把握を行う予定。

3 今後の予定

1月29日から、宿泊予約センターのホームページ上で、報道関係者の宿泊予約受付を開始しました。宿泊予約センターによる予約受付状況については、3月下旬に各宿泊施設に中間状況報告を行い(その他にも問い合わせには随時対応)、4月25日には一旦予約受付を終了する予定です。

ホームページ上での予約受付と並行して、その他の関係者についても各宿泊施設と調整の上、具体的な配宿作業を進めます。

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

配偶者プログラムについて

1 目的

国に対し配偶者プログラムの訪問先や体験内容等についての提案を行うことで、美しい自然や豊かな文化・伝統などの三重の魅力をプログラムに盛り込み、三重の魅力を世界に向けて発信していく。

2 取組方針

- (1) 国が行う配偶者プログラムに、三重県としての提案を盛り込んでもらう。
- (2) 首脳会議が1泊2日で予定されており、配偶者プログラムもその期間内での実施となる(想定：5月26日午後、27日午前)。ただし、日程を勘案するとそれぞれ半日程度の行程となり、賢島から遠距離への訪問はできない。

3 取組状況

テーマ性やストーリー性を持たせた訪問先やコンテンツを総合的に検討のうえ、県としての案を決定し、10月9日(金)に、知事から外務省に対し、提案を行った。

- ・テーマ : 「伊勢志摩にみる日本の伝統・文化」
- ・キーワード : 「多様性」「持続性」「独創性」「女性」「食」

4 今後の進め方

三重県提案の採用を検討段階の外務省に改めて働きかける。検討に際し、具体化が必要な内容に関しては調整のうえ、情報提供を行っていく。

国が配偶者プログラムの訪問先等を決定した後は、県民会議の担当となる行程について、県民会議としてコンテンツを具体的に検討し実施する。

平成28年2月17日

伊勢志摩サミット三重県民会議事務局

事業推進課

ジュニア・サミットについて

1 目的

ジュニア・サミット参加者が三重県の魅力に触れるとともに、三重県の子ども達に交流機会を提供します。

2 これまでの経緯

8月5日 鈴木知事から中山泰秀外務副大臣に本県開催を強く要望

9月17日 伊勢志摩サミット推進局長から外務省大臣官房人物交流室長に、開催日程（案）や討議テーマ及び討議に資する視察先を提案

10月27日 外務省飯倉公館で開催された「伊勢志摩サミット開催レセプション」にて、岸田文雄外務大臣がジュニア・サミットの三重県開催を発表

【開催時期】 平成28年4月22日から

【開催場所】 三重県桑名市を主会場とし、県内各地で視察、交流イベントを行う形で開催

11月17日 ジュニア・サミットに参加する日本代表を募集（～12月7日）

12月19日 ジュニア・サミットに参加する日本代表の選考会を実施

12月25日 伊勢志摩サミット推進局長から外務省大臣官房人物交流室長に、県内分散型の体験・交流プラン及び三重ならではの歓迎交流行事を提案

1月23日 ジュニア・サミット日本代表に対する事前研修を開始（～4月9日）

3 事業の概要

(1) 開催内容について

- ・名称：「2016年ジュニア・サミットin三重」
- ・開催期間（予定）：平成28年4月22日から28日まで
（4月21日会場入り、4月29日東京出発）
- ・主催：日本国外務省、共催：伊勢志摩サミット三重県民会議
- ・会議（討議）テーマ（案）：「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」
- ・参加者：G7各国の原則として15歳～18歳の4名のチーム（男性2名、女性2名）及び付添人1名
- ・使用言語：英語
- ・プログラム（暫定）
 - 4月21日（木）桑名市到着
 - 4月22日（金）開会式、会議
 - 4月23日（土）会議、視察
 - 4月24日（日）会議
 - 4月25日（月）県内分散型交流行事
 - 4月26日（火）会議、三重県送別行事、東京に移動

- 4月27日（水）政府首脳に成果文書提出（27日又は28日）、都内視察
- 4月28日（木）同上
- 4月29日（金）東京出発

4 今後の取組方針

- (1) ジュニア・サミットに日本代表として参加する高校生については、引き続き事前研修を行うとともに、外務省と協議の上、適切な時期に発表を予定しています。
- (2) 三重県ならではの歓迎・交流行事や、県内高校生等との交流を含む県内各地分散型の体験・交流の具体的なプランについて、訪問先が決定後、関係市町及び関係施設と実施に向けた調整を行っていきます。
- (3) 開催日程を通して、県内高校生等と参加者の交流や、県内農業高校等による飾花活動等、少しでも多くの県内高校生が参画できるよう、引き続き外務省と協議します。
- (4) 開催に向け、参加者の歓迎や受け入れ等について、主会場となる桑名市をはじめ、北勢地域の市町や県内の関係者と緊密な連携を図っていきます。

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
事業推進課

第1回三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員会の開催結果について

伊勢志摩サミット開催時に国際メディアセンター(伊勢市)内に設置される三重県情報館(仮称)の展示コンテンツを決定する、第1回三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員会を、下記のとおり開催しました。

記

- 1 日 時 平成28年1月19日(火) 17時15分～19時30分
2 場 所 伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
(三重県津市栄町2-380 HOWAビル津5F)
3 出席委員 別紙「三重県情報館(仮称)コンテンツ選定委員一覧」参照
※大川委員、坂委員、西村委員、丸川委員
4 内 容
(1) 委員長選出について
委員の互選により西村 訓弘(にしむら のりひろ)委員(三重大学副学長)が委員長に就任しました。

- (2) 展示コンセプトについて(見せ方・伝え方)
「伝統と革新～“和”の精神」の基本コンセプトに基づく展示コンセプトは、「伝統」を守りながらも「革新」を積み重ねることで進化してきた「三重」の「姿」「技」「食」一繰り返すことで、いつまでも瑞々しくて若々しい「常若」思想一に決定しました。

- (3) 展示カテゴリ及び募集方法
以下の展示カテゴリを以下の方法で募集することになりました。

カテゴリ		募集方法
姿	自然	県・市町推薦
	歴史・文化	
技	伝統工芸	県推薦
	先端技術	公募、県推薦
食		県推薦

- (4) コンテンツの応募・推薦基準について
- ① 自然、歴史・文化については、三重県を代表するものであること
 - ② 農林水産物については、三重県内で生産または加工されたものであること
 - ③ 伝統工芸品については、国指定伝統的工芸品または三重県指定伝統工芸品として三重県において指定されているものであること。
 - ④ 先端技術については、「三重県内で開発された“ものづくり”に関する先端技術であること」または「三重県内で製造・加工され、その過程の一部または全部に“三重の先端技術”が用いられた工業製品であること」
- 上記①～④を基準として応募・推薦いただくことに決定しました。

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

国際メディアセンターについて

国際メディアセンター（IMC）は、約5,000名の国内・海外報道関係者が伊勢志摩サミット取材することを念頭に置きつつ、外務省が、議長国として、総合的な取材拠点として準備・運営します。

1 開設期間（予定）

平成28年5月25日（水）から5月28日（土）まで

2 概要

報道関係者の作業スペースや国際放送センター等を備えるサミット取材のための総合施設。伊勢志摩サミットでは、三重県営サンアリーナにIMCの主要施設を設置するが、サンアリーナの既存施設では不足するスペース・機能を、仮設施設として整備する。なお、外務省から支出委任を受けた国土交通省が、仮設施設の建設を行う。

また、IMCでは、取材拠点としての機能のみならず、政府・自治体による広報スペース、食事、内外装等を通じて、日本の魅力を世界に発信する予定。国内外合わせて約5,000名の報道関係者が記者登録することを想定。

3 仮設施設

仮設施設は鉄骨造2階建て延べ床面積8,000平方メートル。伊勢の街並みの黒壁など、地元の伝統的なデザインに加え、木の丸柱で囲まれた通路など、「和」を感じさせる演出により、世界各国のプレスを迎える情報発信拠点。

4 利用対象者

IMCへのアクセスが許可されるのは、政府発行の伊勢志摩サミット取材記者証ID所有者のみ。

5 参考事項

邦人・海外プレスを対象にシャトルバスが、外務省からの委託でIMC運営会社によって運営される予定ですが、運営エリア、各地区の乗降ポイント、走行ルートおよびスケジュール等は決まっていない。

伊勢志摩サミット国際メディアセンター（IMC）仮施設概要

国際メディアセンター

- ① 国際メディア・センターは、約5,000名の国内・海外報道関係者が伊勢志摩サミット取材することを念頭に置きつつ、議長国として、総合的な取材拠点として準備・運営。
- ② 既存施設を最大限活用し、不足分を仮設。

IMC施設イメージ(案)



主要諸室の概要

名称	主な機能
アメニティサポート	国内外記者のためのレストラン、簡便・宅配等のサービスを提供
議長国プレス事務局	外務省の報道担当官等が執務

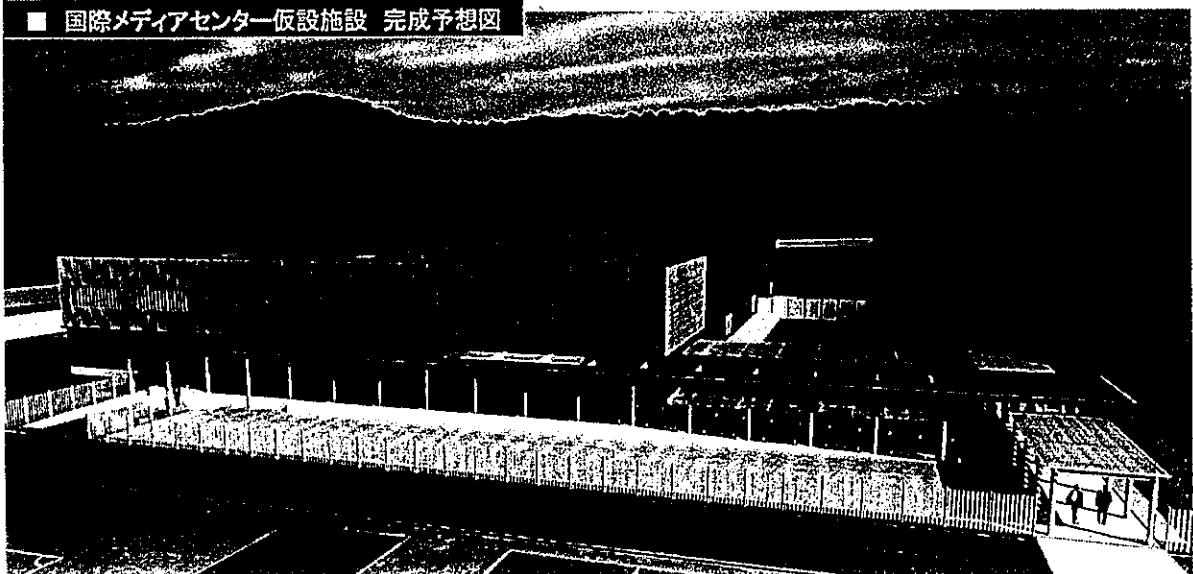
※外国プレス作業室、国際放送センターは、サンアリーナの既存施設に設置。

伊勢志摩サミット 国際メディアセンター仮施設

○「和」を感じさせる演出により、世界各国のプレスを迎える情報発信拠点

- ・伊勢の街並みの黒壁等、地元で用いられている伝統的なデザインの活用
- ・木材の縦格子により、建物の正面性を表現した端正な佇まい
- ・木の丸柱に囲まれた通路により、エントランスへの誘導
- ・広報スペースの展示や提供される食事等を通じた日本の魅力の発信

■ 国際メディアセンター仮施設 完成予想図



平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

インフォメーション機能の整備について

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、移動・滞在・観光等のインフォメーション機能を充実させ、来県者（主に報道関係者）への支援を行うなど、世界各国からの来県者をおもてなしの心でご案内できるようインフォメーションセンターを設置する。

2 取組内容

(1) インフォメーションセンター設置場所と活動内容

① 主要拠点（運営主体：三重県民会議）

- ・国際メディアセンター
- ・滞在期間中の活動支援全般と三重県の情報発信

② 県内主要ターミナル（運営主体：各所在市町主体）

- ・JR津駅、なぎさまち旅客ターミナル、松阪駅、伊勢市駅
近鉄宇治山田駅、近鉄五十鈴川駅、近鉄鳥羽駅、近鉄鵜方駅等
- ・宿泊先・国際メディアセンター等への移動支援と現地観光案内

③ 三重県外（運営主体：伊勢志摩サミット東海会議）

- ・中部国際空港、名古屋駅等
- ・現地への移動支援と三重県及び中部地域の情報発信

(2) 運営スタッフ（上記①②③は次の通り）

① 県民会議スタッフ、業務委託先スタッフ、外国語案内ボランティア

② 運営主体のスタッフと外国語案内ボランティア

③ 運営主体のスタッフ、県民会議スタッフ、外国語案内ボランティア

※センターを設置しない市町の観光案内所スタッフ等も実践研修の場として参加可能とする。

3 取組方針

- (1) 三重県及びサミット関連の情報発信資料は各拠点で共通に使用できるものを県民会議で用意する。各拠点ごとの独自の資料、サービス内容は各運営主体が企画・手配する。
- (2) 三重県内の拠点で必要となる外国語案内ボランティアは、県民会議が一括して募集し派遣する。
- (3) インフォメーションセンタースタッフとして全拠点に共通して必要なサミット関連の知識や接遇方法等については、県民会議以外のスタッフについても合同で研修を行う。

4 今後のスケジュール

平成27年9月～平成28年4月	各運営主体との設置に係る調整
平成28年2月～4月	ボランティア・スタッフ研修
平成28年5月20日(金)～28日(土)〔予定〕	インフォメーション設置

平成28年2月17日
伊勢志摩サミット三重県民会議事務局
開催支援課

外国語案内ボランティアについて

1 目的

伊勢志摩サミットの開催に際して、国際メディアセンターや県内主要駅等に設置するインフォメーションセンター等において、主に外国人報道関係者に対し、円滑な取材・報道活動を行っていただくため、外国語による交通や観光の案内、三重県の情報発信等の支援を行う。」

2 募集概要

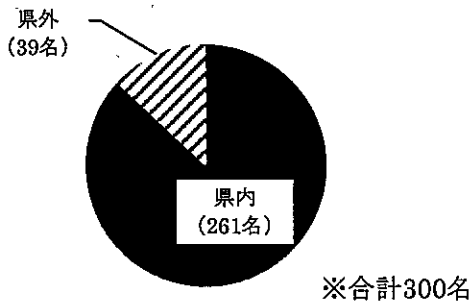
募集対象：英語による案内業務が可能な、県内外の一般、大学生、外国人留学生及び高校生等

募集期間：平成27年10月30日～12月10日

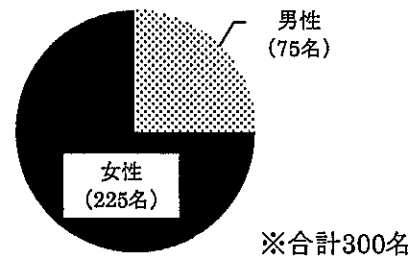
応募者数：1003人

採用者数：300人（当初予定200人程度）

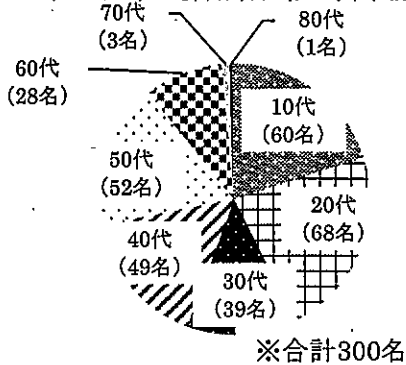
ボランティア採用者内訳（居住地別）



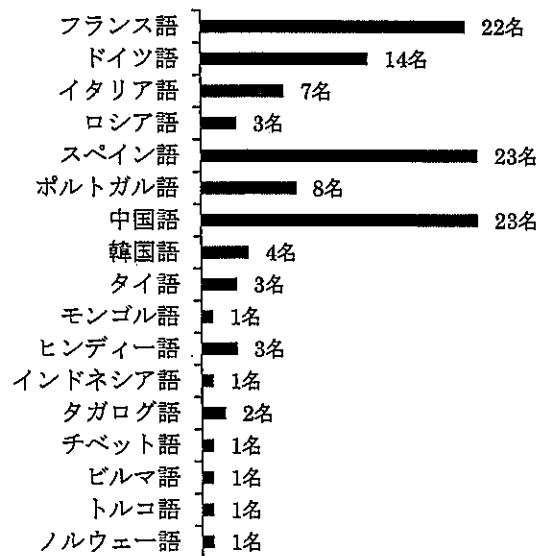
ボランティア採用者内訳（性別）



ボランティア採用者内訳（年代別）



英語に加え他言語にも対応可能な人材



3 活動内容

ボランティア参加者は、語学研修及び接遇研修の受講を必須とし、今後の活動を見据えたレベルアップを図ります。その後、国際メディアセンターや県内主要駅等に設置されるインフォメーションセンター等において、移動・滞在・観光等の情報提供を通じて主に外国人報道関係者を支援します。

参加機会の拡充のため、当初計画に加え名古屋駅での活動を実施するとともに、外国人報道関係者宿泊先ホテルなどでの活動も検討中です。

4 今後の方針

- (1) ボランティア参加者及び応募者が、以後、県内で開催されるMICE、外国人観光客のおもてなし及び各種ボランティアにおいて引き続き活動できる仕組みづくりに取り組む。
- (2) インフォメーションセンター以外のサミット関連事業での外国語ボランティア派遣の要望についても対応する。(その際は採用者300人以外の者も派遣対象とする)
- (3) 企業単位でのボランティア協力申請をいただいた場合は活躍の機会を調整する。

※申請企業：日本トランスシティ(株)、(株)百五銀行、住友電装(株)

4 今後のスケジュール

2月14日、20日	第1回語学研修(鈴鹿、伊勢)
3月13日、26日	第2回語学研修(鈴鹿、伊勢)
4月15日、16日、17日	接遇研修(津、伊勢、鈴鹿)
5月15日	結団式(津)
5月20日～28日(予定)	インフォメーションセンター等での活動
6月11日	解散式(津)